

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム バオバブの木		
所在地	岡山県吉田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	令和 1年 11月 13日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

脚が痛いと訴える利用者さんが増えてきて出かけることがだんだん難しくなっていますが、地域の方のご協力もあり地域行事にはほとんど参加することができ楽しんでいます。地元ボランティアの会との交流では、施設の美化にご協力いただいたり昼食作りをお手伝いいただき、一緒に食事をして交流しました。夏祭り等には町内のボランティアグループに依頼し、吹奏楽の演奏や懐かしの歌等、施設内でも楽しんでいただけるよう行事計画を考えています。地域の方と一緒に災害訓練は今年度も引き続き行います。また、歯科の協力もあり、「口の中から健康に」を目標に口腔ケアにもしっかり取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和1年12月3日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「GHバオバブの木」は開設して5年目であるが、開設当初から地域の協力と連携が強く、ホームの地域への貢献度も高い。それは運営推進委員の顔ぶれを見ても一目瞭然である。医師・歯科医・駐在所・地域の主だった役職の人、そして行政と、地域が一つとなってホームの運営と地域交流の為に活発な議論を交わしている。また、ホーム発行の機関紙を家族のみならず、個人情報保護に配慮しつつ富地区全戸に回覧で広報しており、地域住民にその存在を周知され理解をもらっている。まさに地域密着型サービスの典型的ホームと言える。立地的には山間部というリスクもあり、特に厳冬期は移動手段が一番課題と聞いた。例え重度化した場合でも、利用者の生きる力を引き出せるような介護に取り組んでいこうとする理事長を始め職員の姿勢が素晴らしく、利用者の明るく生き生きとした表情からも理念が実践されている事が確認できた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎日職員の目に留まるよう、ロウカールーム、ホールに掲示して、日々の実践につなげられるよう努めています。	理念を掲示すると共に、全体の年間目標と個人目標を決め、モチベーションを高く持ってケアに取り組み、各職員は毎月の自己評価、1年間の検証・評価をして次なる目標を設定している。その姿勢は運営や日々のサービス内容に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隔月で保育園と交流したり、お田植祭、ひらめ祭り、運動会等の地域行事に参加させてもらいます。富ボランティアの会の訪問では、庭等の掃除や昼食作りをしていただき、昼食を一緒に食べて交流しました。	開設以来地域ぐるみのお付き合いが定着しており、子供達やボランティアの会の人達との交流も活発で、周囲が暗くなった頃にホームの灯りが見えるとホッとするとあってもらえ、地域の心の拠り所にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	帰宅願望の強い利用者さんの対応で地域の方々にも度々お世話になったことで、利用者さんの様子についてよくご理解いただいた様子でした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故、ヒヤリハット、評価等の報告を行い意見をいただき、サービスの向上につながるよう職員で共有します。	運営推進委員は富地区の主だった役職の人達や家族・利用者等14名程のメンバーから構成されており、活動報告・情報交換等毎回活発な話し合いをしている。推進委員の歯科医による「口腔機能低下の予防」講座を開いたり、1年間のヒヤリハット・事故の統計報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時相談したり、運営推進会議にも参加してもらっています。	鏡野町は昔から福祉への取り組みが熱心であり、包括からの信頼も厚くホームへ困難事例の受け入れの相談もある等、地域の受け皿的役割を担っている。市主催の研修に参加したり、職員が地域ケア会議に参加して連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の方等にも身体拘束廃止委員に加わっていただいています。隔月の会議でいただいた意見も参考に、身体拘束をしないケアを行っています。	玄関の施錠はしていないので、外に出ていきたい人用に、玄関のドアに緑色の台紙に注意書きの張り紙がしてある。緑色は認知症の人の記憶に残りやすく視覚から入る効果があるとの事。散歩等一人で外を歩いている人を見かけた場合にも地域の人の理解と協力がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修にも参加し職員研修につなげています。研修では自分の介護を振り返り、虐待のないケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しておられる利用者さんもおられ、後見人の方とお話しながら勉強させていただいています。外部の研修にも参加して理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、ご理解いただけるよう努めています。疑問点等が出れば、その都度対応するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的に意見を言われる方は少ないので、機会を見つけてこちらから聞くよう心がけています。	毎月発行の「バオバブ*ねむだより」に写真を掲載して行事予定や報告をしている他、各家族宛に日常のワンショットの写真・発言・エピソード等を書いた手紙を送付している。面会時には状況報告をし、積極的に意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング、申し送り、面談の他、普段から意見を聞けるように努めています。意見があれば代表者と管理者で話し合いをして対応します。	元職員の復帰、若い男性職員の採用等、職員の年齢層も幅広く皆仲が良い。職員の提案で今夏はお涼み会と一緒に花火大会も行い、利用者にもとても好評だったと聞いた。理事長の家族が運営や介護に従事している利点が十分に発揮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や研修の修了等に応じて昇給を考慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心に外部の研修にも参加し、他施設の方々とも意見交換や交流ができるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修等への参加を勧め、他施設の方々とも意見交換や交流ができるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して間もない利用者さんには特に、ご家族からその都度情報をいただいたり、信頼関係が築けるよう生活の様子の観察、傾聴に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際には、困っていること等、お話を詳しく伺います。特に初期は、家族が安心して利用者さんを預けられるよう配慮して様子を伝えたり情報をいただいたり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子や家族等のお話を伺う中で、当事業所のサービスでよいのか等、協力医等にもアドバイスをいただきながらみきわめを行うようにし、他サービスも含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分のことでも施設のことでも、食事の片づけや掃除等できることはしていただき、一方的な立場にならないようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんはやはりご家族を必要とされておられるので、安心できる立場として協力していただきたい思いを伝えお願ひしています。入所後強い帰宅願望が続いた利用者さんがおられましたが、ご家族の面会等の協力もあり現在はとても落ち着かれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に、町内のいろんな場所やイベント等に出かける計画をし、利用者さん同士思い出話をしたりして楽しめるように考えています。出かけた先で地元の人に声をかけていただいでうれしい様子が見られることもよくあります。	この地区出身の人は少ないが、行事を含め地域ぐるみのお付き合いで、皆顔馴染みの関係になっている。また、家族にも協力してもらって思い出の場所や懐かしい人に会う機会を多く作るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	決まった利用者さん同士お話をすることが多いですが、時にはいろいろな方とお話できるよう職員からも働きかけ居場所作りを支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会があれば家族等から様子をお聞きし、必要に応じて支援できるようにしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から思いを把握し、馴染みの場所へ出かけることや家族に会うこと等の希望にできる限り添えるよう考えています。家へ帰りたい希望に応えることはなかなか難しいですが、今後もご家族と話していかなければと思います。	要介護度1~2の人が大半で、コミュニケーションも取りやすく、日頃から会話も多いので、比較的一人ひとりの思いや要望を把握しやすい。CM作成の介護支援経過を見ても、発言・状態等をよく拾って記録してある。本人の思いをプランにつなげるように努めている。	日々の介護記録は職員間で共有しやすく、例えば「眠られている」を「入眠中」にする等、簡潔な言葉で記入するのも良い。利用者の発言や行動、エピソード等だけでなく、職員の気づきや対応も記録してみてください。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時の契約時に得られた情報だけでなく、普段の会話から得られた情報も大切にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化に気づいたときには、申し送りやミーティング等で話し合い、伝達ノートに記録し、職員全体で現状把握ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、管理者、介護職員それぞれの立場で、本人や家族や関係者から話を聞いたことを介護計画につなげられるよう、作成時には話し合いを行います。	利用者の心身の状態をよく把握し、思いや意向を踏まえて職員間で話し合いながらプランを作成している。様子を改善し、昨年までのプランの内容(ニーズ等)をより充実させ、職員が実践しやすい具体的なサービス内容にしている。	本人の希望(例えば、趣味の山登りがしたい)を叶えるためには、何がその実現を阻むのか、課題を抽出して、目標に対してケア内容を設定してもいい。代替品を用意して満足感を味わってもらう等、色々な工夫をしてみてください。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的な記録を残すことを目標に実践してきました。他職員にもわかりやすくご家族にあてる手紙にも反映できたりしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に家族の同行をお願いしていますが、場合によっては職員で対応する等、その時々状況に配慮したサービスを行うよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に運営推進委員の方を中心に避難訓練に参加して下さったり、利用者さんの安全面等についてよく気にかけていただいています。野菜の提供やボランティアの方が施設の掃除に来て下さったり、とても助かっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、事業所の協力医に変更される方が多いですが、それぞれの希望のかかりつけ医が定期的に往診して下さっており、必要に応じて受診し、その都度適切な医療を受けられるようにしています。	週1回の訪問看護、月2回歯科医・歯科衛生士による口腔ケア指導もあり、利用者の健康管理には日頃から万全を期しており、医療と介護の連携も出来ている。訪看サービス提供表、訪問診療情報提供書の記録を見て、利用者の状態を共有して日頃のケアにも活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格をもった職員が1名勤務しており、心身の状態については指示を仰いでいます。週1回の医療機関からの訪問看護では、心身の状態を診ていただき、受診や介護につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際にはお互いに情報を共有し、入院中もその都度相談員さん等と連絡を取り合うようにしています。町内の研修等で病院関係者の方とお会いすることも機会に、関係が途切れないよう関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針、看取り等の考えについて、まず入居の際に説明させていただき、ご家族にもそのことについて考えていただきます。終末期が近づいたと判断されるときには、終末期の事業所のあり方等を伝え、ご家族、主治医と話し合い、共に支えていけるようにと考えています。	今年看取りをした人は無く、現在ターミナルに近い人もいない。重度化した場合は特養への移行や入院となるケースが多い。過去にはホームで看取りをした事もあり、利用者の生きる力を引き出せるような介護に取り組む姿勢が理事長の訓話にもあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度も救急法の講習を予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も地域の方々にご協力をお願いし、夜間想定避難訓練の実施を予定しています。	夜間想定避難訓練では夜間火災発生マニュアルに沿って行動し、階段やスロープを使って玄関前の駐車場に利用者と共に避難した。また、今年初めて裏の避難経路を使い、リビングから裏のテラスに出て外へ避難した。地震発生マニュアルも作成してリビングに掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げ、一人一人を尊重することを大切にしています。なれ合いになってしまわないよう気をつけなければならないと話しています。	入浴時の羞恥心や誇り等に配慮して同性介助をしたり、脱衣場には衣服の着脱場所に衝立をして、人が出入りしても見えないような工夫がしてある。呼称は本人の希望で愛称で呼んでいる人もいて、一人ひとりの人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いや希望を表せない方には選択肢を示し、自己決定できるようにしていただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等の都合上希望に沿えないときもありますが、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたり、散歩へ出られたり、と普段はそれぞれの希望やペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で希望される方もおられますが、定期的に声をかけて地域の理美容室へ出かけて身だしなみを整えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月クッキングの時間があります。毎食前の口腔体操や食事後の片づけを当番制にしてみると、みなさんのやる気が出て当番も一つの楽しみになっているようです。	食事前の口腔体操を元気よくした後、栄養満点の手作りの食事を頂きながら「ここの食事は美味しい！言う事なし！」とAさんが言い切る。介助の必要な人もなく、全員途中で箸が止まることなく完食。食は元気の源。この人達が高齢でも元気なのが頷ける。	「今日の当番」の下には「口の体操」「おぜんふき」のそれぞれの当番の名前が書いてある。昼食の献立を発表した後「皆さんいただきますよ」Bさんの元気な声。役割を持って生き生きとしている。とても良い取り組みなのでいつまでも継続して下さい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量やスピード等に合わせ声かけや介助を行います。水分量はチェック表に記入して誰が見てもわかるようになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分で口腔ケアを行います。歯科医に一人一人の口腔内の状態を検査していただいでいて、月2回歯科医又は歯科衛生士の口腔指導を受けています。毎食前の口腔体操にもしっかり取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合ったパンツやパットを使用しており、職員は排泄パターンを把握して時間をみて声かけを行い自立排泄を支援しています。	高齢の人が多く、全員紙パンツにパットであるが、一人ひとりに合った介護用品を専門職のアドバイスを受けながら使用している。排泄が自立の人は自分でトイレに行き「使用中」の札を掛け替えている場面も見かけた。声掛け誘導して自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や日々の体操、歩行運動で予防に努めていますが、それでも便秘の方もおられ、必要に応じて看護師が浣腸等の対応を行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、9時半～16時の間で希望の時間帯に声かけする等、できるだけ利用者さんの好きな時間に入浴していただけるよう配慮しています。	「寒い」「風邪引いとる」「夜じゃないと入らない」等と様々な言い訳で拒否をする人もいるが、週3回その人に合わせた声かけや対応で全員浴槽に入って入浴出来ている。ゆっくりマンツーマンでコミュニケーションを取りながら入浴タイムを楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの希望やペースによって休息していただいておりますが、昼夜逆転にならないよう配慮して休んでいただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に新しい薬が加わったとき等は様子をよく観察し、症状の変化を主治医にその都度相談し、薬の継続や中止等の判断をするようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけや洗濯、居室の掃除等を自分たちでしたり、最近では広告を使ったカゴ作りを職員と一緒に楽しんでおられる方が多いです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に沿って、散歩やドライブ等に出かけられるようにしています。ご家族にも協力していただき、時には自宅へ帰ったりご家族と出かけられる利用者さんもおられます。	地域柄、冬場は積雪もあり外出は難しい面もあるのに加え、今は足腰が弱くなった人が増えて以前程の活発な外出は少なくなったが、花見や紅葉狩りに出かけた。恩原高原にドライブ・外食した時は「きょうのはええ旅行じゃった」と喜んでもらった。天気の良い日は散歩、庭での外気浴・日光浴等をして気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがあるため、原則持ち込みはお断りしています。必要に応じて事業所で立て替え、自分たちで買い物等ができるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があるときは、家族の都合を考慮してさせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが集まるホールには利用者さんが作った季節の壁画を飾って季節感を感じられるよう定期的に製作を支援しています。毎朝、職員と利用者さんが協力して掃除をして清潔を保っています。	室内でも十分楽しめるようにと、リビングは広いスペースと数々のアクティビティを取り揃えており、リハビリを兼ねて楽しんでもらおうと大型の遊具を導入している。玄関から繋がっている一角にはテーブル・イス・ソファが置かれ、広い窓から道路を往来する車を眺めて楽しんでいる人もいた。また、テーブルではおしゃべりをしながら創作活動を活発に行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者さんが思い思いに過ごせるようソファや椅子を配置し、自由にくつろいでいただけるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ベッド、洗面台、加湿器が備え付けで、その他の家具等は本人の馴染みのものや使いやすいものを持ち込んでいただけるようにしています。	広くゆったりとした洋室に、思い出の品々を持ち込み、家庭の延長線のような落ち着いたその人らしい居室作りをしている。心身の状態により物を置かないシンプルな部屋、家族がレイアウトした愛情がいっぱい感じられる部屋、転倒防止用にセンサーを設置して安全対策を施している部屋もあり、それぞれ住み心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に応じて、部屋をわかりやすくしたり、共同で使用する場所の空き状況等も自分で判断できるよう工夫しています。		